

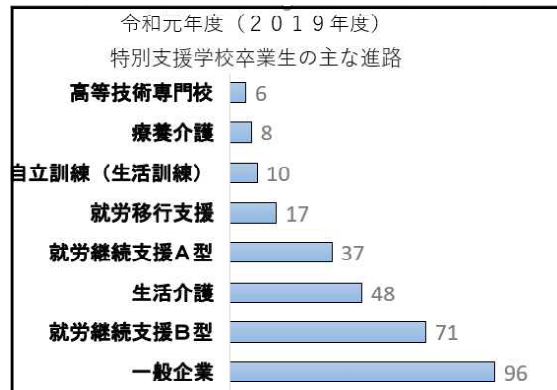
令和2年度 熊本県立荒尾支援学校進路便り第5号（通巻NO.51）

わーく&らifu

令和2年11月2日 進路指導部 発行

■CONTENTS■

進路希望を形にする就業体験（現場実習・施設体験）



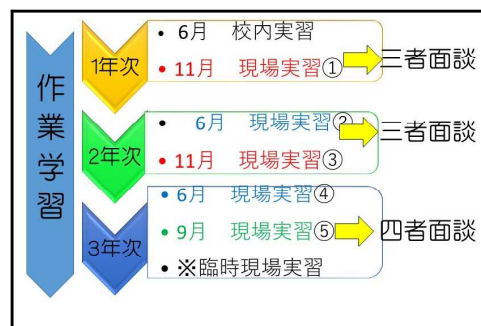
左のグラフは、令和元年度（2019年度）に熊本県の特別支援学校（知的障がい）を卒業した人たちの主な進路先です。多い順に「一般企業」「就労継続支援B型」「生活介護」と並んでいるのがわかります。しかし、保護者の皆様にとって、このような結果はわかるとしても、肝心のわが子の「進路」は「いつ」「どのよう

な」手順で絞り込んでいけば良いのでしょうか？

■進路希望を形に。～段階的な「現場実習・施設見学・施設体験」～

上記のような不安は、特に先の見通しが立ちづらい小学部段階の保護者に多く、今年実施したアンケートによりますと小学部一般学級保護者のうち40%が子どもの進路について「わからない。」と答えています。

しかしご安心ください。特別支援学校では、進路希望を形にしていく重要な学習として「現場実習（一般学級）」や「施設見学・施設体験（重複障がい学級）」を段階的に実施し、少しずつ卒業というゴールを目指します。



左図は、高等部一般学級の「現場実習」の実施時期を表したものです。生徒たちは、1年次の秋から卒業まで5回の「現場実習」を体験します。

そして実習後、実習の成果や課題を基にして話し合う「三者面談」では、

進路希望を確かめ、方向性を確認したり、進路の変更を話し合ったりして、本人・ご家族・学校が進路について共通理解を図っていきます。

このような段階的な実習と、三者面談の繰り返しによって、卒業までにお子様にマッチした進路先を探していくのが特別支援学校の進路支援です。

また、三者面談の機会に、必要な手続きについても適宜お知らせして参りますのでどうぞご安心ください。

■9月実施「高等部一般学級3年生現場実習のようす」

（左から「農作業」「セロハン巻き」「ボールペン組み立て」）



この実習は、「希望の進路先へつなげる実習」です。16人の生徒たちはそれぞれ、採用試験の意味合いも自覚してがんばりました。

現在三者面談の最中で、一人ずつ進路が固まってきました。

今回の実習先は次のとおりです。

就労支援センターワンピース（3人）、うすま苑（2人）、
くじらのせなか（1人）、るびなす（1人）、ひまわりの里（2人）
SUN☆フラワー（1人）、きらきら（1人）、とまり木（1人）
BLOOM（1人）、ルピカ（1人）、なかま（1人）、

この3年生の「現場実習」は、進路が確定するまで何度でも繰り返します。どうぞご安心ください。

編集後記

進路を決めるために「現場実習・施設体験」などの学習があることはご理解いただけましたでしょうか。

本校では実習先選定に至るまでの保護者の皆様への「進路」に関する情報提供にも力を入れています。

9月から始まった「ARA・SHI福祉・就労セミナー」は、有明圏域のほぼ全部の施設が参加する一大行事です。コロナの影響か今年は参加者が若干少なめのようなので。感染防止対策を整え、どうぞふるってご参加ください。（谷口）



